

オールさこんやまの取組みについて		
取組名 (開始年度)	構成員	取組概要
NPO法人 オールさこんやま	<p>【理事長】 連合自治会長</p> <p>【理事】 事務局長、自治会長（副理事長2名）、管理組合協議会長、社会福祉協議会長、老人会長、民児協会会長、商店会長、左近山診療所院長（副理事長）</p>	平成25年5月に「ほっとさこんやま」開設を期に設置。左近山連合自治会地区の住民を対象として、健康で安心・安全な生活の実現を目標に、全住民参加型の相互扶助的の事業や生活支援事業を行い、同時に乳幼児から高齢者まで全世代を対象とする福祉保健活動を推進し、広く公益及び地域振興に寄与することを活動の目的とする
ほっとさこんやま (平成25年)	<p>【責任者】 連合自治会長</p> <p>【担当】 自治会長、社会福祉協議会長、自治会事務局長</p> <p>【有償ボランティア】 約15名</p>	1階コミュニティレストラン。2階は午前中はこどもの居場所・午後レンタルスペースとして活用している。構成員の責任者、担当が無償ボランティアとして運営を担い、複数名の有償ボランティアがお手伝いしている。有償ボランティアと、人員が不足する場合は無償ボランティアが対応している。有償ボランティアへの謝礼金の支給等で活用するため、よこはま夢ファンドの助成金の申請手続きや資金の活用を行う担い手が必要になる。
おでかけワゴン (平成30年)	<p>【責任者】 社会福祉協議会長</p> <p>【担当】 自治会長</p> <p>【有償ボランティア】 約15名</p>	毎週木曜日運行。左近山移動支援プロジェクトメンバーが協力（地区社協・地域ケアプラザ・UR都市機構など）。区社協の補助金受給を検討している。有償ボランティア約15名がドライバーや補助員を担当している。
日曜ほっと (平成28年)	<p>【責任者】 自治会長</p> <p>【担当】 商店会長、左近山診療所院長（副理事）</p> <p>【運営メンバー】 約15名</p>	第三日曜日午後2時間こどもの居場所としてURの支援を受けて立ち上げ。月1回の開催で利用者約50名。累計で50回以上開催している。運営は自治会長を中心とした有志が行っている。

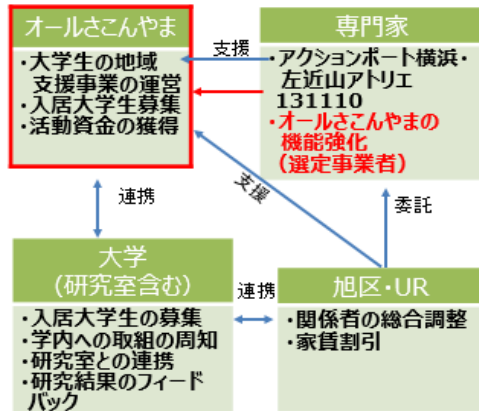
区との協働事業

取組名 (開始年度)	構成員	取組概要	課題
まちづくり 方針検討会議 (平成29年)	<p>【委員長】 連合自治会長</p> <p>【メンバー】 地域の活動団体の代表者29名</p> <p>【オブザーバー】 UR、左近山小中学校関係者、地域ケアプラザなど13名</p>	<p>左近山地域の活動、取組について方針を話し合うための会議。令和元年度は2回開催し、ちょこっと応援隊の取組や旧左近山小高小学校跡地の活用方法について議論した。議題の検討、地域関係者への周知等の事務局の役割は現状は区が担っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・議題の周知、地域出席者の招集等の連絡調整の役割を地域が担う
ちょこっと応援隊 (平成31年)	<p>【責任者】 商店会長</p> <p>【受入団体】 日曜ほっと、左近山アトリエ131110、左近山ショッピングセンター、お出かけワゴン、地区社協</p> <p>【登録者】 16名</p>	<p>地域住民の意見である人材バンクを具体化するため、取り組んでいる事業。令和元年の8月に趣味・特技を活かしたちょこっとボランティアを発掘することを目的にアンケートを実施。回答者を対象にワークショップを3回実施。その結果、令和2年度の始動に向けて活動団体や拠点を訪ねて活動を知ってもらう「活動紹介ツアー」等を実施することが決まった。応援隊の受け皿が地域にないため、現状名簿の管理やメンバーへの連絡調整は区が担っており、今後はオールさこんやまの事業として責任者を確定したが、実際に事務を行う担い手が見つかっていない。</p> <p>参考資料：資料2、資料3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・応援隊の活動のフィールドになる既存の地域の活動団体とのマッチングの仕組みづくり ・名簿の管理、メンバー間の連絡調整を行う機能の形成

大学生入居事業
(平成29年)

【責任者】 連合自治会長
【学生メンバー】 6名
(横浜国立大学の都市科学部の学生で入居者3名、非入居者3名)

【事業関係図】



【大学生の活動内容：各5名以下】

- | | |
|--------|-------------------|
| まちづくり | ①地域のイベントの実施・参加 |
| | ②NPO法人の活動補助 (月5H) |
| | ③定例会(月4H) |
| | ④活動報告 |
| 教育とアート | ①地域のイベントの実施・参加 |
| | ②小中学校のボランティア(月7H) |
| | ③定例会(月2H) |
| | ④活動報告 |

令和元年度は3～5名の学生が活動。2期生にあたる学生が団体名を「サコラボ」と命名し、活動している。区の補助が令和2年度で終了することを見据え、活動資金を確保するため、よこはま夢ファンドによる寄付集めを実施。チラシを作成し日頃から大学生の活動に協力している地域住民を対象に寄付活動を行った。一定の寄付額は集まったものの市に助成金を申請するための事務手続きを行える人材がおらず、資金の活用はなされていない。メンバー募集活動は区が中心となりチラシ掲示・配付や説明会を実施したが応募がなかった。そのため横浜国立大学の協力のもと、新入生(合格者)向けの資料としてメンバー募集のチラシを送付。また団地に入居せず参加するメニューを加えたことで新メンバーの応募につながった。令和2年度よりまちづくり枠4名、教育とアート枠2名で活動する

【事業形態】

オールさこんやまを事業主体とし、大学、UR・旭区、専門家が連携して事業を進めている。旭区とオールさこんやまが委託型の市民協働契約を締結。オールさこんやまが大学生の受け入れ先となっている。令和元年度より事業費について区とURが覚書を締結し、双方で事業費を負担をしている。また事業関係者への総合調整は現時点で区が行っている。

参考URL①Facebook

<https://www.facebook.com/sacolabo/>

②インスタ

https://www.piwox.com/user/sacolabo_danchi/21399046249

参考資料：資料4、資料5

・よこはま夢ファンドを活用し、活動資金を獲得する。またその資金の活用方法の検討や助成金の申請手続きを行う人材の確保や仕組み作りが必要

・事業関係者(大学、UR、専門家、区)との連携を綿密に行うための顔が見える関係性の構築

		<p>【取組テーマ】</p> <p>①まちづくり オールさこんやまが運営するコミュニティカフェを補助しながら、商店街やオールさこんやまを活性化するイベントを企画・実施。活動資金獲得のため、年間目標額を300万円に設定し、よこはま夢ファンドの枠組みを活用した募金活動にも取り組む。令和元年度より学生の地域活動の参画に豊富なノウハウや人脈を持つNPO法人アクションポート横浜が専門家として学生の活動を支援している。2年度もアクションポート横浜が活動を支援する。 参考URL：https://actionport-yokohama.org/</p> <p>②教育とアート（令和2年度開始） 左近山小中学校でボランティアをしながら、子育て世代をターゲットにアートを切り口にしたイベントの企画・実施。左近山出身のランドスケープデザイナーである熊谷玄氏が運営する左近山アトリエ131110が専門家として学生の活動をサポートする。 参考URL：https://131110.art/</p>	<p>・学生の活動をより魅力的なものにするため専門家に委託して支援してもらっている。今後も継続する場合、委託資金を確保する必要がある。</p>
--	--	--	---